

第3回 「リリーインスリン 50 年賞」 受賞者発表

インスリン療法を 50 年以上継続されている、
2 名の糖尿病患者様を表彰

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、ニュートン F. クレンショー社長)は、世界糖尿病デーである 2005 年 11 月 14 日、第 3 回「リリーインスリン 50 年賞」の表彰式を行った。表彰式ではお二人の受賞者に、ご本人のお名前を刻印した特製メダル(純銀製)を贈呈した。

この賞は、米国リリー社が 1974 年に設立したもので、これまでに米国を中心に約 1,500 名の患者様が受賞されており、日本での募集・表彰を 2003 年より開始した。インスリン療法を開始されて 50 年以上になる糖尿病患者様は、インスリンの技術発展をご自身の経験として感じ、治療面・心理面において様々な工夫をされ、50 年という長い年月を糖尿病とともに歩んでいらっしゃる方々である。「リリーインスリン 50 年賞」は、このような患者様の長年のご努力を称えとともに、他の糖尿病患者様にとっても治療に前向きに取り組んでいただけるような目標となり、勇気を与えることを願って設けている。

◆第 3 回「リリーインスリン 50 年賞」受賞者

柿澤静子(かきざわ しずこ)様

[1932 年生まれ(現在 73 歳)。東京都在住。]

看護学校を卒業し、看護師として働き始めてまもなく糖尿病を発症し、1951 年(当時 19 歳)インスリン治療を開始。主治医・同僚の協力もあり、退院後、看護職に復帰する。結婚後 2 児をもうけた数年の育児期間を除いて、看護師として勤め続ける。仕事、家事・育児で忙しい生活の中、良好な血糖コントロールを維持。64 歳で退職後、趣味の社交ダンス、ペン習字を楽しみながら、規則正しい生活をおくる。

〈受賞コメント〉

「突然の糖尿病で落胆した気持ちも、好きな看護師の仕事に戻ることで自然に癒され、前向きになりました。病気になった当初は糖尿病の情報が少

Box 1

受賞者：左から 柿澤静子さん
石山凡夫さん



なく勉強するのに苦労しましたが、今は情報が豊富でありがたいですね。今、私が元気でいられるのは、発病当時からお世話になっている先生のおかげだと感謝しています。」

石山凡夫(いしやま ひろお)様

[1933 年生まれ(現在 72 歳)。静岡県在住。]

1952 年(当時 19 歳)、大学在学中に 1 型糖尿病を発症し、インスリン治療を開始。輸入インスリン製剤の英文の添付文書の翻訳、自ら調合した尿糖試験用試薬での自己尿糖測定、自分用の主食分量一覧表の作成など、積極的に様々な工夫をして、糖尿病についての理解を深め血糖コントロールを行ってきた。小学校教師として長年勤務し、地域の民話伝説を子どもたちと集める「民話クラブ」を運営するなど教育に情熱を注いだ。現在は、地域のシニア・アンサンブルに参加し、奥様からのプレゼントであるテナーサックスの練習に余念がない。

〈受賞コメント〉

「糖尿病のある生活を自分への挑戦ととらえて、積極的に工夫することを逆に楽しんできました。病院の糖尿病教室で得た学びが原動力となり、“食べてはだめ”より、“何がどれだけ食べられるか”と発想を前向きに転換しています。信頼できる主治医・看護師さん・栄養士さんに出会えたことに心から感謝しています。」**■**